

別添5-7 (第3の2 (2) 関係)

令和3年度持続的生産強化対策事業のうち
畜産GAP拡大推進加速化(畜産GAP認証審査支援)に関する事業評価票

事業実施主体名	公益社団法人中央畜産会
事業の概要	畜産GAP認証審査支援を通じたGAPの普及推進に係る全国的な取組を支援し、畜産GAP認証取得の拡大を推進。
成果目標の具体的内容	①審査員養成研修(2回、30名) ②審査員力量向上研修(2回、40名) ③畜産GAPの認証取得経営体数の昨年度(11経営体)以上の増加
成果目標の達成状況	①2回、10名 ②2回、41名 ③6経営体
総合評価	A : 計画以上の成果が見られる B : 計画どおりの成果が見られる C : 計画どおりの成果が見られない
総合所見	<p>・新型コロナウイルス感染症により人の移動が厳しく制限された影響により審査員養成研修の参加数は伸び悩み、また、高病原性鳥インフルエンザや豚熱の全国的な頻発により、審査の際に生産農場への立ち入りを制限されるなど計画どおりの取組が困難となった。</p> <p>・しかしながら、このような事業実施主体の努力によっては如何ともし難い感染症及び家畜疾病の影響下において、オンライン研修や遠隔審査に新たに取組み畜産GAPの普及定着に着実に努めたものの総合的に達成率は低調であったため、総合評価としては「C評価(計画どおりの成果が見られない)」とすることとするが、評価は終了する。</p>

別添5-7 (第3の2 (2) 関係)

令和3年度持続的生産強化対策事業のうち
畜産GAP拡大推進加速化(畜産GAP認証審査支援)に関する事業評価票

事業実施主体名	エス・エム・シー株式会社
事業の概要	畜産GAPの専門知識に関する研修会の実施、審査機関の増設を図ることで審査体制を充実させ、畜産GAPの拡大及び推進。
成果目標の具体的内容	①審査員養成研修(2回、30名) ②審査員力量向上研修(2回、40名) ③畜産GAPの認証取得経営体数の昨年度(26経営体)以上の増加 ④令和4年度を目標とした審査機関の増設のための準備
成果目標の達成状況	①2回、20名 ②2回、36名 ③39経営体 ④令和4年度の審査機関増設に向け、認証規程作成会議、認証機関準備検討会を実施
総合評価	A : 計画以上の成果が見られる B : 計画どおりの成果が見られる C : 計画どおりの成果が見られない
総合所見	<p>・新型コロナウイルス感染症により人の移動が厳しく制限された影響により審査員養成研修の参加数は伸び悩み、また、高病原性鳥インフルエンザや豚熱の全国的な頻発により、審査の際に生産農場への立ち入りを制限されるなど計画どおりの取組が困難となった。</p> <p>・しかしながら、このような事業実施主体の努力によっては如何ともし難い感染症及び家畜疾病の影響下において、オンライン研修や遠隔審査に新たに取組み畜産GAPの普及定着に着実に努め、本事業の最も重要な成果目標である畜産GAPの認証取得経営体数を昨年以上に増加させるとともに、令和4年度に審査機関を増設するとの目標に向かっての準備が順調に進められたことから、総合評価としては「B評価(計画どおりの成果が見られる)」とすることとし、評価は終了する。</p>

別添5-7 (第3の2 (2) 関係)

令和3年度持続的生産強化対策事業のうち
畜産GAP拡大推進加速化(畜産GAP認証拡大支援)に関する事業評価票

事業実施主体名	一般財団法人日本GAP協会
事業の概要	<p>畜産 GAP 認証の国際化を見据え、食品としての畜産物の一層の安全確保を図るため、Codex HACCP ガイドラインと JGAP 基準書との比較・検討を行うとともに、国際的に取り組むべき目標である SDGs を反映した JGAP 基準書(家畜・畜産物)改定の検討を行う。</p> <p>また、畜産 GAP の認証拡大に向けて、小売業・消費者に向けた PR イベントのウェブ開催等の畜産 GAP の普及活動を実施。</p>
成果目標の具体的内容	<p>①国際基準である Codex HACCP ガイドラインや SDGs を反映させた「JGAP 農場用管理点と適合基準」の改定版の作成</p> <p>②畜産 GAP の認証拡大に向けた PR イベントにおいて 100 名以上の参集</p> <p>③認証農場ロゴマーク 15 件、農畜産物使用ロゴマーク 5 件増</p> <p>④畜産 GAP の認証取得経営体数の対前年度(37 経営体)の 120%以上の増加</p>
成果目標の達成状況	<p>①技術委員会(4回)を経て改定し、令和4年3月公表</p> <p>②平成4年2月に PR イベントを Web 開催し、140 名を参集</p> <p>③認証農場ロゴマーク 7 農場、農畜産物使用ロゴマーク 7 件</p> <p>④45 経営体(対前年度 122%)</p>
総合評価	<p>A : 計画以上の成果が見られる</p> <p>B : 計画どおりの成果が見られる</p> <p>C : 計画どおりの成果が見られない</p>
総合所見	<p>・「JGAP 農場用管理点と適合基準」の改定、畜産 GAP 認証拡大に向けた PR イベント参加者については目標を達成されたこと</p> <p>・認証農場ロゴマーク使用農場数は、目標とした 15 農場の増加に対して 7 農場と達成することができなかったが、農畜産物使用ロゴマークは 5 件増加の目標に対して 7 件と目標は達成されたこと</p> <p>・畜産 GAP 認証農場数は、対前年度(37 経営体)の 120%以上の増加の目標に対して 122%(45 経営体)と目標は達成されたこと</p> <p>等から、総合評価としては「B評価(計画どおりの成果が見られる)」とする。</p>

別添5-7 (第3の2 (2) 関係)

令和3年度持続的生産強化対策事業のうち
畜産GAP拡大推進加速化(持続可能性配慮型飼養管理推進)に関する事業評価票

事業実施主体名	公益社団法人畜産技術協会
事業の概要	持続可能性に配慮した飼養管理への取組を推進するため、畜産GAPの取組のひとつであるアニマルウェルフェアの普及・啓発が重要。また、アニマルウェルフェアは我が国の畜産の国際競争力強化や国際的評価等の向上のため必要不可欠であることから、飼養管理指針について国際基準との整合性を図りつつ、更なる普及・啓発により持続可能性に配慮した飼養管理への取組を推進。
成果目標の具体的内容	①生産者への指導的立場の者を対象としたアニマルウェルフェアに関する研修会・シンポジウムの開催 ②飼養管理指針の改訂等のための委員会の開催(5畜種、8回以上)と必要に応じた改訂等
成果目標の達成状況	①アニマルウェルフェア普及研修会(5回、参加者117名)、ブロイラー生産者(157名)に対するアニマルウェルフェア研修会(1回) ②飼養管理指針検討委員会(5畜種+家畜輸送、6回)、肉用牛及び採卵鶏学識経験者委員会(3回)、合計9回開催するとともに、普及リーフレットを増刷・配付
総合評価	<p>Ⓐ : 計画以上の成果が見られる</p> <p>B : 計画どおりの成果が見られる</p> <p>C : 計画どおりの成果が見られない</p>
総合所見	<ul style="list-style-type: none"> ・アニマルウェルフェア普及のための研修会は計画回数以上に実施していること ・飼養管理指針の改訂等のための委員会開催についても計画どおり行われていること ・飼養管理技術向上のためのリーフレット「アニマルウェルフェアの実践に向けて」(乳用牛・肉用牛・豚・ブロイラー)の作増刷・配布も行われてこと <p>等から、事業目的に沿った取組であると考えられ、総合評価としては「A評価(計画以上の成果が見られる)」とする。</p>